

和光

発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700

国立療養所 奄美和光園

電話 (0997) 52-6311 FAX (0997) 53-6230

URL <http://www.nhds.go.jp/~amami/>

平成29年2月1日
(2017)

第104号



■表紙	1
■年頭に当たって	2～3
■平成28年度合同慰霊祭	4
■キャンドルサービスとイルミネーション	4～5
■ふるさとお楽しみ便	6
■親子療養所訪問	6

■第70回国立病院総合医学会に参加して	7
■あまみ保育園児によるハロウィン仮装パレード	8
■加計呂麻島ハーフマラソン参加	9
■永年勤続表彰を受けて	10～11
■人事異動・和光園日誌・編集後記	12

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



ハートロックから見た元日の朝日

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます



年頭に当たって



国立療養所奄美和光園

園長 加納 達雄

平成29年は穏やかな日差しを受けて始まりました。正月は好天に恵まれ、新年の希望を膨らませるに相応しい三が日でした。奄美大島は寒暖差が小さく、変化の周期も短くて、緋寒桜の木も堪えようか咲こうか迷っているのか、木や枝によってつぼみの膨らみ方が様々でした。しかし一月の末になると園内には緋色の花が一斉に開き、蜜を求めてウグイスやメジロが乱舞し始め、園内にも生き生きとした活気が戻ってきます。和光園を取り巻く自然には常に新しい生命の息吹が繰り返します。新しい年を迎え、今年一年が全ての人にとって実り多い年となるよう希望いたします。

さて、話題を療養所に移しましょう。和光園はここ数年の間に大きく変化してきました。医療体制の整備、病院機能評価の認定と更新、建物の屋内外のバリアフリー化、病棟と不自由者棟のアクセスの改善、一般舎居住棟の更新築整備、介護体制の変更、総仕上げとして不自由者棟の看護体制の強化をしてきました。これらはもう新しいことではなく、前からそうであったかのように機能し、ごく自然に定着しています。今年はこれら諸々の変化を基盤として、和光園での介護・看護の完成形を目指したいと思っています。そして最終的には、入所者の生活の向上に寄与しなければなりません。

奄美和光園は入所者の方々にとって生活の場である、という認識に今年も変わりはありません。入所者にとって療養所の中で暮らしている限り、“何の気兼ねもいらない”という暗黙のルールがあります。また私たち職員にもルールがあります。その中で最も大切なルールは、“入所者の生活に無用な干渉をしない”ということです。これが表裏一体となって和光園の入所者は自由に暮らしていきます。そこに、ここ数年の入所者の様子を加味してみましょう。何の気兼ねもせず、無用な干渉もなければ、自由に生活していけるのでしょうか。答えは、段々難しくなっている、だと思います。これは残念ながら、入所者の高齢化が進行しているからに他なりません。高齢化とは人間としての成熟を通り越して、衰えが顕在化していくことであり、とりもなおさず“老い”との戦いを強いられる局面に達したことを意味しています。職員はこの戦いの当事者ではなくパートナーとしての“助っ人”にならなければなりません。助っ人が当事者に対して戦い方にあれこれ干渉することは、入所者の心の混乱を招きます。入所者はさらに年齢を重ね、自身ではかつて経験したことのない負担が心身両面にかかってきます。しかも経過とともにその程度は大きくなっていきます。これに対処するため私たちは、助っ人としての工夫が必要となります。これがいわゆる介護の工夫です。

和光園は、入所者にとって生活の場であると述べましたが、それと同時に医療機関でもあります。したがって、園内には生活区域と医療区域があり、この両区域をうまく使って入所者が自由に生活できるような工夫が必要となります。その

ためには、私たちもどちらの区域にも出入りし、入所者の実生活を理解しなければなりません。これが、職員全員で全ての入所者の生活を支える、ということに繋がっていきます。介護をする人は、入所者が何と戦っているのかを知る必要があります。多くの場合は身体の衰えに由来しますが、時には衰えを自覚することと戦っていることもあります。また、時には感情的になってその場にいる人やその場の雰囲気と戦っていることもあります。介護は、入所者のすぐ側にいて、その時その時の状態を瞬時に判断し、どうしたら入所者の気分を害さずに一日を快適な気分で過ごすことができるかを知っていなければなりません。まさしく経験と観察力の勝負です。入所者に対して、無用な説明でこれから先を想像させる負担を強いてはならず、逆にこれまでの介護を通してどのようにすればさらに快適になるかを教えてもらわなければなりません。

先ほど、今年を目標を“和光園での介護・看護の完成形を目指したい”と書きました。完成というと大げさに聞こえますが、入所者の生活を入所者が満足するように支えるという確固とした心構えを職員の心の中に作るだけです。今でも持っているという職員は多いと思いますが、全ての職員が同じように持つということが大切です。人によって濃淡があるのではかえって混乱に繋がります。心構えが備われば、自ずと物事は完成に向かいます。世の中では少子高齢化と財源不足を背景に在宅医療へと大きく舵を切り、医療と介護の連携が強調されています。しかし和光園ではとうの昔に舵を切り、今日ではその方向性に疑問を抱く人はいなくなりました。その理由として、一人ひとりの入所者の声に耳を傾け、その人達が住みやすい療養所を作り上げようと職

員全員で努力した結果、入所者が元気に暮らしているのを目の当たりにしているからです。

入所者本位の生活空間を作るに当たって、最も力点を置いてきたことは、どうすれば入所者の生活意欲を高めたりあるいは維持したりすることができるかということでした。正月なので、“仮に・・・なら”という形の話をしてみましょう。世の中では介護ロボットの開発が報じられるようになっていきます。将来、これに人工知能が一緒になって人間の代わりをする日が来るかも知れません。仮に今、よくできた“考える介護ロボット”を和光園に導入したなら、どうなると思いますか。いくつかの場面では今より便利になると思います。しかしそれは誰にとって便利になるかと言えば、介護する側に便利になっているだけのことです。入所者は逆に不安感を抱き、日常生活に対する意欲を維持することは難しくなるのではないかと思います。何故ならば、いかに優秀なロボットでも、心構えまで備わっているとは考えられないからです。介護には毎日決まってすることとその時々に必要なとされることがあります。皆さんが作っている介護計画は、ルーチンの介護計画で、もちろんよく考えられていますが、実際には咄嗟の介護のできばえで入所者の満足度は大きく左右されます。その時どうするかが心構えの“有り無し”にかかってきます。有益な介護情報は数多く出回っていますが、和光園の入所者を満足させる回答は、教科書の中にはないことを肝に銘ずる必要があります。職員一人ひとりが実践を通して会得していくしか方法はありません。入所者の笑顔が溢れる和光園にしてください。職員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

平成28年度 合同慰霊祭

11月24日木曜日、平成28年度合同慰霊祭が講堂にて開催され、ご遺族、入所者、職員合わせて66名が参列しました。前年度の慰霊祭から一年間に亡くなられた4名の入所者を含む384柱のご冥福を祈り、厳粛な雰囲気の中、加納園長より「和光園が地域の医療機関として一翼を担っていくとともに、入所者が安心して静かに暮らしていくことが出来るように職員一同がいっそう努力していく」との

言葉がありました。

その後、全参列者が順番に一人ずつ慰霊の祭壇に向かって献花をし、納骨堂へ移動して焼香を行いました。

最後に執筆担当者として、和光園の開設以来に亡くなられた384名のご冥福をお祈りいたします。

福祉室長 磯部 武嗣



キャンドルサービスとイルミネーション

今年もクリスマスが近づく中、イルミネーションの飾り付けを行いました。今回は流星をモチーフにしたイルミネーションを増やし、幻想的な世界を演出しました。さらに、時計台に飾ることで、病室やゆらいの郷の玄関からも見え、普段外出の少ない入所者からも、「あれ（イ

ルミネーション）を見に行こう」と積極的に楽しむ場面がありました。また、一般舎の入所者から、「普段とても暗い場所がこんなにも明るくきれいになり、うれしくて涙が出たよ。朝もつけてくれないか」との言葉が聞かれ、とても好評でした。

着々と準備が進み、12月22日の午後より、あすなろホールにてキャンドルサービスが開催されました。最初に聖歌隊が入場し素敵な歌声を披露しました。曲



の途中でサンタ役の加納園長が登場すると、会場からは歓喜の声があがり、入所者一人一人にクリスマスカードのプレゼントが手渡されると、さらに皆さん喜ばれていました。その後、入所者からサンタ園長へハンドベル演奏のプレゼントがあり、ハンドベルのきれいな音色が響きわたり、少しタイミングのずれる場面もほほえましく、温かい気持ちになりました。



会も終わりに近づき、サプライズとして、暴れ牛が登場しサンタ(三太)ママ(サービス委員長)にお尻を叩かれる姿に、入所者全員が大きな歓声をあげて喜んでいました。お茶会では給食の方の手作りイチゴのムースが提供され、サンタが描かれたイチゴをみて、「可愛い」との声が聞かれました。短時間ではありましたが、入所者の皆さんに喜んで頂くことができました。

来年も素敵な笑顔が見られますように。

不自由者棟
サービス委員 下川 満



入所者の皆様が食べやすいようにイチゴのムースと、喜んでもらえるようにイチゴのサンタを作りました。

調理師 福山 祐子



ふるさとお楽しみ便

平成28年12月27日(火)、鹿児島県健康増進課長の松岡様が「知事挨拶」のお言葉を自治会で全館放送された後、入所



者代表の山田相談員にふるさとおたのしみ便が手渡されました。

ふるさとお楽しみ便は県内各地域の特産品で、正月を迎えるのにふさわしく豪華な商品の詰め合わせとなっております。また1995年度から引き続いており、今では入所者の方々の楽しみの行事の一つとなっております。

最後に、この場を借りまして皆様からの心温かい贈り物に対して感謝申し上げます。

福祉室長 磯部 武嗣

親子療養所訪問

鹿児島県の企画行事として、毎年子供たちの夏休みの時期を利用して行われているのですが、今年は台風の影響のため一旦延期となり、12月27日の開催となりました。

4組の親子12名が参加され、まず施設見学として納骨堂まで行き、子供たちの代表2名による献花が行われ、参加者全員で礼拝しました。献花後はあすなろホールで、加納園長、入所者代表の山田相談員よりそれぞれ開会の挨拶がありました。交流会では親子のグループが3つの班に分かれて入所者のそれぞれの体験談を聞いてお互いに心を打ち明けながら、最後に子供たちの質問を入所者の方が受けるという形で進みました。

交流会の後のアンケート結果では、小学生：「病気や当時の様子を直接聞けて良かった。」また、中学生：「授業でハンセン病のTVを見てとても暗いイメージ

があったけど実際は元気に明るく生活されていて改めて理解できてよかったです。」等の意見がありました。和光園入所者一人ひとりの歴史、そしてハンセン病問題の正しい知識を多くの子供たちに知っていただくためにも啓発活動の一環として大事な企画行事であると改めて感じました。

福祉室長 磯部 武嗣



第70回 国立病院総合医学学会に参加して

平成28年11月11日、12日の2日間、沖縄県宜野湾市にて第70回国立病院総合医学学会が開催されました。「医療構造の変化と国立病院機構に問われる役割 ―命ぐすい、温かい医療を広げよう―」をテーマに、5つの会場にて一般演題2,781題、35のシンポジウムや特別講演、企業展示が行われました。シンポジウムでは、ハンセン病療養所のライフサポートのあり方として他施設の様々な職種の取り組みを聴講する事ができ、療養所の現状に即し、とても興味深い内容でした。

私は、本学会は2度目の発表で、今回は、「本人の思いを尊重した終末期ケアのあり方」の演題で発表しました。会場の雰囲気には緊張感はありましたが落ち着いて質問にも返答でき、達成感を得る事ができました。この学会参加は自分にとって実りのある良い学習の機会となり、貴重な経験となりました。この経験を今後のケアへ繋げていきたいです。

研究をまとめ、発表に至るまでにご支援・ご協力下さった皆様に深く感謝致します。

病棟看護師 鶴村 あさみ

私達は、1日目の発表で「不自由者棟で生活する入所者の余生に対する思い」というテーマで発表しました。大人数の前での発表はとても緊張しましたが、和光園の職員も多数来てくれたので、とても心強く感じ無事に発表を終える事ができました。今回の研究で不自由者棟の入所者の思いが分かり、一人ひとりにじっくり寄り添って関わる看護・介護を目指したいと思いました。

沖縄では天候にも恵まれとても過ごしやすい環境でした。会場も4ヶ所に分かれ14会場ととても敷地も広く全ての発表を聞く事は出来ませんでしたが、他病院のポスター発表を聞く事で終末期看護に取り組んでいる病院も多くあり今後の学びに繋がりました。今回このような貴重な経験をさせて頂き、また発表に至るまでご指導・ご協力をいただき感謝申し上げます。

不自由者棟看護師 徳武 真由美



今回、学会に参加し、以前和光園勤務をされ、お世話になった師長さん方のお迎えもあり、気候も気分もとても温かく迎えて頂きました。

私は初めての学会参加で演者として発表するのも初めてでしたので、とても緊張していました。しかし、今回は研究メンバー4人全員で参加することができ、とても心強く、自分たちが1年間以上かけて研究した成果を発表しようという気持ちで臨むことが出来ました。

「ハンセン病療養所における看護師のエンドオブライフケアに対する思い」というテーマで4分間の発表に臨みました。発表はあっという間に終わってしまい、質問にも少し別の答え方があったのではないかと心残りもありましたが、無事終えたことにほっとしました。終末期医療のテーマで他のハンセン病療養所やNHO（国立病院機構）の発表を聞くことができ、自分たちと同じような課題に取り組み、日々のケアに取り組んでいる事を知り、とても励みになりました。この貴重な体験を今後のケアにつなげていきたいです。発表に至るまでにご指導・ご協力を頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

不自由者棟看護師 竹下 智美



あまみ保育園児による ハロウィーン仮装パレード

近年、日本においてもハロウィーンという行事が市民権を得たようで、当園のあまみ保育園でも数年前より、園児によるハロウィーン仮装パレードが実施されています。

今年も慣例通り10月31日に行う予定だったのですが当日が雨天のため延期となり、翌11月1日に行いました。

まず保育園で園児6名が思い思いのお化けの衣装に着替えてスタートしました。

最初は本館の正面玄関で「トリック・オア・トリート」と呼びかけると幹部の方を始めとして職員の皆さんから、お菓子をたっぷりと貰いました。次にゆらいの郷を訪問すると入所者、職員の方々に盛大に迎えられ、ここでもたくさんのお菓子を貰いました。最後に少し遠かったのですが自治会館まで行くと待っていてくれた入所者に歓迎されて、ここでは園児が一人一人自己紹介をして、「大きな

栗の木の下で」「とっつぶる」等の歌を披露しました。

入所者、職員の皆さんに大変喜んでもらえて、お菓子もたくさん貰えて、子ども達も楽しんでくれて本当にハッピーなハロウィーンでした。この場を借りまして行事の企画やお世話を下さった保育士の先生方や歓迎してくださった入所者、職員の皆さん、そして何より子ども達にお礼を申し上げます。

来年もきっとやろうね。

あまみ保育園 園長 迫 坪 浩



加計呂麻島ハーフマラソン参加

スポーツの秋という過ごしやすい季節になり、平成28年11月13日(日)、加計呂麻島のハーフマラソンに参加しました。

早朝に当園を出て古仁屋の港から海上タクシーで会場に向かいました。ウォーミングアップで体を温めているとなんと、あの“猫ひろし”さんが子供たちと記念撮影をしているところを発見しました！すかさず自分のカメラを持って行き、記念撮影をしてもらいました。撮影後にスタートの場所まで移動すると、猫ひろしさんが持ちネタのギャグで私を含む参加者のモチベーションを上げていました。

その後、猫ひろしさんがスタートのピストルを鳴らし、私は給食室の吉田さんと一緒にスタートしました。その数分後で距離がだいぶ遠のいて吉田さんを見失ってしまいました(汗)。

最初は軽いペースで走っていたのですが、坂の上り下りが激しくドラえものの着ぐるみを着た謎のランナーにも抜かされたりして私の心は折れそうになりました。

しかし加計呂麻の綺麗なエメラルドグリーンの海を眺めながら走ることが出来て感無量でした！！

そして折り返し地点(10km)に着いた時は、「ああ、ついにここまでやっと..!!」と、まだゴールしていないのに達成感がありました。余韻にひたってすぐに残りの距離の長さに再び絶望しました(笑)

悲鳴を上げる左足に鞭を打ち、給水所でエアーサロンパスを噴霧し痛みを抑えながら残りの距離を走りました。そしてゴールまで残り1kmから全力疾走してゴールインしました。その後に完走証明書をいただき、近くで猫ひろしさんがサイン会をしていたのでサインをいただきました。

今回はハーフマラソンでしたが、マラソン自体に挑戦することが初めてでしたのでとても良い経験になりました。猫ひろしさんからリオオリンピックの裏話も聞けて楽しいイベントでした。

研究検査科 川崎 岳史



永年勤続表彰を受けて



今年で勤続年数が30年となり表彰を受けました。これも一重に入所者の皆様をはじめ支えて下さっている職場の方々のおかげと感謝申しあげます。

私は国立都城病院（現都城医療センター）に日本医科大学附属病院を退職後就職しました。結婚してからは看護の仕事をするために、手抜きの主婦業を諸先輩方から習得し、周囲に助けられ仕事と子育てを両立(?)してきました。看護の仕事は大変なことも多いのですが、職場の人達との出会いに加え多くの入所者の

方々や患者様との心に残る言葉や出会いがあります。つらいこともやりがいに繋げられる仕事なので30年間続けることが出来たのだと思います。

そして、人の温かさに触れることの多い奄美の地で表彰を受けることが出来たことに一層の喜びを感じています。今後も人との繋がりを大切にして看護に携わっていきたいと思います。ありがとうございました。

総看護師長 吉原 由美

昭和58年に和光園に就職し、昭和62年から定員採用となって平成29年1月6日に勤続30年表彰をいただきました。洗濯場で25年、平成25年からは看護課配置となり、看護助手として勤務しています。現在は、病棟勤務を経て治療棟勤務に至りますが、振り返れば長いようで短く感じるこの30年でした。こうして

勤めることができたのも入所者の皆様の温かい言葉や同僚の方々の支えがあったからだと思います。残りの歳月は皆様への感謝の気持ちを忘れず、頑張っていきたいと思います。これからもよろしくお願いします。

治療棟看護助手 若師 和之

このたびは、30年永年勤続表彰をしていただきありがとうございました。

私は、昭和61年4月採用と同時に初めて介護職に就き、その一步を踏みだしました。当時、右も左もわからない私が、今日まで介護の道で、職務にあたれたのも、先輩方をはじめ同僚の皆様の教えを請い、支えて頂いたからこそ、職務を全うすることができたと感謝いたします。

この度は、30年永年勤続表彰して頂きありがとうございました。

昭和61年6月に採用されて以来、今日までの間多くの方々の方ならぬご指導とご支援ご協力を賜り仕事をさせて頂きました事、本当に感謝しております。

この度は30年表彰を頂きまして、時の経つのは早いものだと実感しております。

思い起こせば高校を卒業したばかりで右も左も解らず、時には若気の至りで反発もした自分を辛抱強く指導して頂いた諸先輩方の苦勞を思うと感謝の気持ちで一杯です。

自分は学生当時、父親が長く入院しており、病院に通うのがライフスタイルの一部となっていました。その父親も高校最後の秋に亡くなり、悲しみと安堵という複雑な気持ちに包まれていた矢先、当時の国立病院（厚生省）から声が掛かり

介護の職を離れていた時期もありましたが、再び介護に携われることができた今、介護を取り巻く環境も多様化するなか、日々の業務を一つ一つ成し遂げつつ、入所者の方に満足いただける介護を提供していけたらと思います。

不自由者棟介護員 日置 清澄

今後も一步ずつ前進していくように努力してまいります。このような表彰の機会を与えて下さいました皆様へ心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

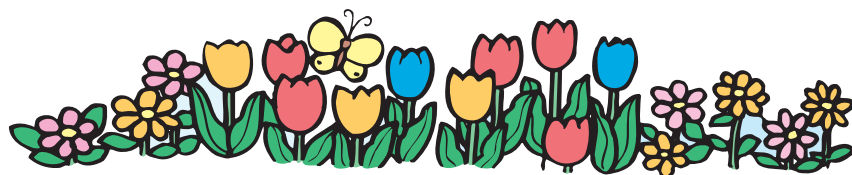
福祉係長 井上 清仁

ました。病床で苦しむ父親を思い出すのが辛く、病院に勤務することに抵抗があったのですが母親、高校の先生等に説得され渋々出向いたのを昨日のように思い出します。

このような混沌とした気持ちでスタートを切った私ですが、公務員生活の4分の3を既に終え残り10年となりました。

これからは成長させて頂いたこの組織に少しでも恩返しができるよう奮闘したいと思います。ありがとうございました。

庶務班長 島田 登志男



人事異動

(平成28年11月1日～平成29年1月31日)

H28. 12. 31	宮島 みどり	看護助手	辞職
	畑田 智帆	看護師	辞職
H29. 1. 1	今里 百合子	看護師	採用

和光園日誌

(平成28年11月1日～平成29年1月31日)

H28. 11. 1	1	あまみ保育園ハロウィーン仮装パーティ
11. 4	4	三笠宮弔旗掲揚
11. 8	8	施設見学（奄美看護福祉専門学校）
11. 18	8	施設見学（朝日中学校）
11. 22	2	前川嘉洋名誉園長先生叙勲祝賀会（多目的ホール）
11. 24	4	合同慰霊祭
11. 29	9	九州三園ブロック会議 （菊池恵楓園、星塚敬愛園、奄美和光園）
12. 2	2	施設見学（朝日小学校）
12. 5	5	一般入院 女性
12. 7	7	特設人権相談（鹿児島地方法務局奄美支局） 一般入院 男性
12. 9	9	一般入院 女性
12. 12	12	医療施設立入検査（大島支庁保健福祉環境部）
12. 14	14	施設見学（奄美群島民生委員・児童委員）
12. 21	1	一般入院 男性
12. 22	2	クリスマスキャンドル（あすなろ）
12. 26	6	佐藤紘二名誉園長逝去 施設見学（坂本福祉相談所） 親子療養所訪問
12. 27	7	ふるさとお楽しみ便贈呈式（鹿児島県保健福祉部）
12. 28	8	仕事納め式
H29. 1. 4	4	仕事始め式
1. 6	6	永年勤続表彰
1. 18	18	一般入院 男性
1. 24	24	一般入院 女性

編

集

後

記

昨年1月24日、奄美では115年ぶりに雪が降り、島々も薄っすらと雪化粧し、舞い降りる雪に驚きと感動を覚えたのも記憶に新しいところです。さて、この時期、待ちに待った緋寒桜の開花宣言が、そこかしこから伝わり、街角や山々では緋寒桜が咲きほこり、一足早い桜の季節を迎えました。漢字で「緋寒桜」。緋は花の淡紅色、寒は寒気に咲くことを意味し、1月下旬から2月上旬に見頃をむかえます。

朝晩の寒さは残るものの、一雨毎に、暖かさを感じる日々が増すことと思われませんが、皆様、この時期は体調も崩しやすいですので、健康には十分気をつけてお過ごし下さい。

編集委員 日置 清澄